原稿執筆要領

I. 投稿の際の書式等

1. 原稿は，パソコンの文書作成ソフト：Microsoft Word を使用し（その他のソフトは受け付けない），A4 版，横書きとする。
2. 書式は，上下・左右余白ともに 30mm とし，1 頁 40 字×40 行の設定とする。また，本文に頁番　　号および頁ごとに行番号を入れる。

II. タイトル・氏名・要旨等

1. 日本語の場合
   1) タイトルは，MS ゴシック・14pt の太字とする。
   2) 著者名は，姓と名の間に全角スペースを入れ，MS 明朝・12pt の太字で列記する。
   3) 著者が複数の場合は「,」で並べ，著者名の右肩に，所属を表すための数値を上付き文字で 1)，2）とつける。
   4) キーワードは MS ゴシック・10pt の太字で記し，用語間は「,」で区切る。また，キーワードは 3～5 個記載する。
   5) 要旨の文字は MS 明朝・10pt とし，太字とする。
   6) 要旨の文章は 400 文字程度とし，MS 明朝・10pt で記載する。
2. 英語の場合
   1) タイトルは，Times New Roman・14pt の太字とする。
   2) 著者名は，姓と名の間に半角でスペースを入れ,Times New Roman・12pt の太字で列記する。
   3) 著者が複数の場合は「,」で並べ，著者名の右肩に，所属を表すための数値を上付き文字で 1)，2）とつける。
   4) Key words は Times New Roman・10pt の太字で記し，用語間は「,」で区切る。また，Key words は 3～5 個記載する。
   5) Abstract の文字は Times New Roman・10pt とし，太字とする。
   6) Abstract の文章は 250words 程度とし，Times New Roman・10pt で記載する。間違いがないことを証明するネイティブチェックを受ける。

III. 本文の書式等

1. 日本語および英数字のフォントは MS 明朝・10pt とする。句読点は，日本語では「,」「。」(全角)，英語では「,」「.」で統一する。英文原稿の場合は Times New Roman・12pt とする。
2. 本文は,「緒言」「方法」「結果」「考察」等の大見出しをつけて構成する。大見出しには，ローマ数字で「Ⅰ.」「Ⅱ.」と順に番号をつけ，左寄せとし,「**緒　言**」のように１マス空ける。

3. 見出しは「1.」「2.」とする。それ以降の見出しは，1)，(1)，①，A. a の順に数字やアルファベットを付す。
4. 大見出しと見出しのフォントは MS ゴシック・10pt の太字とする。見出し以降の数字やアルファベットも MS ゴシックとするが，太字にはしない。
5. 英文原稿の場合はネイティブチェックを受けることとする。

IV. 図表と文献の引用および記載方法

1. 図表は，本文中に挿入せず，文章末に掲載する大きさで貼り付ける。図は下部に，表は上部に図表番号を明記し，タイトルは左寄せとする。図表のコメントは，必要時，下部に左寄せで挿入する。
2. 文献の引用方法
   1) 本文中の引用箇所には「(著者の姓，西暦文献発行年,」を付けて表示する。

   ［例］

   a. 武田（2015）によると「……は……である」。

   b.「……は……である」と加藤は述べている（2012)。

   c. 武田は，……は……である，と主張している（2015)。

   2) 2 名の著者による単独の文献の場合，その文献が本文に出現するたびに常に両方の著者の姓の間に「・」を付して表記する。外国語文献では，2 名の姓を「&」でつなぐ。初出以降に再引用する場合も同様である。

   ［例］

   a. 武田・加藤（2015）によると「……は……である」。

   b.「……は……である」と武田・加藤・高山は述べている（2013)。

   c. 武田・加藤は，……は……である，と主張している（2013)。

   d. Takeda & Kitou（2013）は… 。

   3) 著者が 3 名以上の場合，文献が初出の時点ですべての著者姓を，間に「・」を付して表記する。外国語文献では，最後の著者姓の前に「&」を入れる。初出以降に再引用する場合は，最初の著者の後ろに「他」を付ける。外国語文献の場合は「et al.」を付ける。

   ［例］

   a. ……であることが明らかにされている（武田・加藤・高山，他，2011)。

   b. ……は……である（Johnson, Williams, Brown, Jones, & et al.2011)。

   4) 著者が 4 名以上の場合は，初出・再引用にかかわらず，筆頭著者の姓のみに「他」（外国語文献の場合は「et al.」）を付す。

   5) 複数文献を同一個所で引用した場合には，(鈴江，2012；高山・田中，2011）というように筆頭著者のアルファベット順に列記する。

   6) 同一書籍の異なるページを複数個所で引用する場合には，本文末の文献リストにお

いては単一の文献としてページ数を記載しない。

［例］高山（2010）によると…である。また，…であるケースも存在することが明らかにされている

7) 翻訳書を引用した場合には，原著出版年／翻訳書発行年を表示する。

［例］Smith & Johnson（2005/2008）によると…

3. 文献の記載方法

1) 引用文献は，論文の最後にまとめて記載する。

2) 文献はハーバード方式，即ち，著者のアルファベット順に列記する。

3) 文献は，行頭文字なしの箇条書きとし，1 文献の 2 行目以降はぶら下げ（1 字）とする。

4) 数字と括弧，頁数のハイフンは半角とし，カンマ，ピリオド，コロン，サブタイトル等のハイフンは，全角とする。

5) 著者名は 3 名まで表記し，4 名以上は省略形式とする。

6) 同一著者の文献は出版年順に配列する。同じ出版年のものが複数あるときは，1980a,1980b のようにアルファベットをつけて区別する。本文中の引用部分でも同一のアルファベットを用いて出典を区別する。

7) 雑誌名は，慣用略称を用いてもよいが，原則として医学系の場合は，医学中央雑誌収載誌目録および Index Medicus に従うものとする。

【雑誌掲載論文の場合】

著者名(発行年次)：論文の表題，掲載雑誌名，号もしくは巻(号)，初頁-終頁.

［例］狸小路郁子(2021)：伴侶動物の育成と自己の幸福感の関係性，飼育環境学会誌，(2)，28-32.

【単行本の場合】

著者名(発行年次)：書籍名(版数)，出版社名，発行地.

［例］狸小路寛(2019)：伴侶動物の育て方，福澤出版，東京.

著者名(発行年次)：表題，編者名，書籍名(版数)，初頁-終頁，出版社名，発行地.

［例］狸小路郁子(2021)：消化器疾患と食事療法，岐阜花子，伴侶動物の疾患別治療法，23-52，福澤出版，東京.

【翻訳本の場合】

原著者名／訳者名(翻訳書の発行年次)：翻訳書の書名(版数)，初頁-終頁，出版社名，発行地.

［例］Erikson, E.H（1959）／小此木啓吾，小川捷之，岩男寿美子(1973)：自我同一性―アイデンティティとライフサイクル，111-118，誠信書房，東京.

【電子書籍で，DOI がある場合】

著者名(年号)：論文タイトル，収載誌名，巻(号)，初頁-終頁. doi：xxx-xxx

【電子書籍で，DOI のない場合】

著者名(年号)：論文タイトル，収載誌名，巻(号)，初頁-終頁．URL：http://…

【Web ページなど，逐次的な更新が前提となっているコンテンツを引用する場合】

サイト名：タイトル，Retrieved from: http://・・・・．(検索日：XXXX 年 XX 月 XX 日)

［例］日本看護協会：2020 年看護実態調査報告書：
https://www.nurse.or.jp/up_pdf/20200330151534_f.pdf(検索日：2021 年 12 月 17 日)

V. 利益相反の開示と著者資格貢献度

1. 利益相反に関する記述を「利益相反の開示」(MS ゴシック・太字・左寄せ，見出しは不要) と書いたのちに，本文中に書く。

［例］本研究は，令和 3 年度科学研究費助成事業の学術助成基金(課題番号〇〇〇)の交付により実施した。

［例］本論文に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

2. 著者貢献度に関する記述を「著者貢献度」(MS ゴシック・太字・左寄せ，見出しは不要) と書いたのちに，本文中に書く。

［例］I.U は，研究の着想，データの収集及び分析と解釈，原稿作成に貢献した。また I.M は，データの分析に貢献した。全ての著者は，最終原稿を読み，承諾した。

VI. 投稿申請用紙

1. 規定の投稿申請用紙に，①タイトル（日本語・英語），②原稿の種別，③所属，氏名（連名の場合は全員），④連絡先（住所，電話番号，メールアドレス）等を記載，または，該当するものにチェックを入れる。

附　則

この要領は 2022 年 1 月 12 日より発効する

この要領は 2022 年 9 月 7 日より発効する

この要領は 2023 年 9 月 13 日より発効する

この要領は 2025 年 10 月 15 日より発効する

この要領は 2026 年 10 月 14 日より発効する